

「マダガスカルジャスミン」

廣瀬清一 事務局

爽やかな晴れが続き、寒からず暑からずの心地よい季節になった。

母の日に子供がマダガスカルジャスミンの高さ 50cm ほどの鉢植えを持ってやってきた。

あんどん仕立てで、白い花をたくさん付けている。葉は楕円形で厚くつやのある濃い緑をしていて、花の白さが一層際立って洒落ている。

なにか照れがあるのかカーネーションではないが、感謝の気持ちが伝わってくる。

この花は、マダガスカル原産で、ジャスミンに似た香りと花姿からマダガスカルジャスミンと呼ばれている。

香料用のジャスミン(モクセイ科)とは異なり、プルメリア、テイカカズラなどと同じキョウチクトウ科の植物である。



花はかなり肉厚、さらに純白でジャスミンと同じく先端は5つに割れた筒状の形である。

学名は *Stephanotis floribunda*。Stephanotis は王冠にふさわしい、floribunda は花が多いにちなむ。

花は春から夏にかけて長期間楽しむことができるという。しかし、一度咲いた蔓には花が咲かず、新しく伸びた蔓にしか花芽を付けないとある。花が終わり、あんどん仕立てが窮屈そうなので、説明書に従って根本付近で蔓を切った。なかなか芽が出て来ずしばらく心細かった。今度は、蔓を自然に伸ばして楽しんでみようと思う。

花の香りは、全体的にジャスミンに似ていて爽やか清楚なフローラルの甘い香りがする。

ベンジルアルコール、酢酸ベンジル、安息香酸ベンジル、オイゲノール、 α -ファルネセン、リナロール、ジャスミンと共通する成分も多くみられる。日中よりも夜間の方が香りが強くなる。

マダガスカルジャスミンは、「Hawaiian wedding flower」「Bridal wreath」などと呼ばれ、海外ではブライダルブーケに使われる。日本には明治時代の中頃に渡来したとある。

ところで、アフリカ大陸の東にあるマダガスカルは、島といっても日本の1.5倍の面積があり、大陸からは400kmほど離れている。近くにあってもアフリカ大陸から分かれたのではない。先史時代、 Gondwana大陸の分裂に伴い分かれ、南極大陸、オーストラリア大陸、最後にインド亜大陸とマダガスカル島が分かれて孤立したということで、独自に進化した動植物が多数生息している。

前肢と尾で器用にバランスを取り跳ねるように地表を横に移動するベローシファカ、白と黒の輪状の模様の長い尻尾を持つワオキツネザル、木を逆さまに植えたような独特な形をした大木のバオバブなど、固有の珍しい生物種が多いことで知られている。

さらに、マダガスカルは熱帯に属するが、島の中央に南北に走る2,000m級の高原があり、島の東部、中央部、西部で大きく気候が異なる。このため熱帯雨林気候、温暖湿潤気候、サバナ気候、ステップ気候など多様な環境を提供している。これを利用して、海外からいろいろな植物が持ち込まれ栽培されている。

香料植物では、バニラで、イランイラン、クローブなど多くの種類が栽培され、高品質な精油の生産地と知られ香料植物の聖地となっている。

日本からのアクセスはよくないが、何時かは訪れたいところだ。

参考文献

- 1) Marcella B. Birgit Piechulla Journal of Plant Physiology Volume 159, Issue 8, 2002, 925-934